**説教20240414ヨハネ21：1-14「イエスとの再会」**

**イエスが死者の中から復活した後、弟子たちに現れたのは、これでもう三度目である。**

**と聖書には記されていますが、これはどういう事でしょう。イエス様は十字架の死から復活されてから、大忙しであちこちの弟子や信徒のところを回っておられたのでしょうか。イエス様が、多くの人に現れたという事は確かでしょうが、イエス様は、同時に複数のところに現れることができる普遍性をお持ちですから、大忙しで回っておられたというのは当たらないでしょう。**

**この時、弟子たちが、イエス様に３度目に人間の前に現れた、という事は、人間がそのように感知したという事ではないでしょうか。私たち人間の真実は、忘れっぽい、忘れていく存在であるという事です。私たちは個人差はありますけれども、以前に起こったことを次第に忘れていく存在です。**

**それが人間の真実であり、実情であり、ありのままの姿なのです。**

**先週、私は、熊本にある錦ケ丘教会に行き、九州連合長老会の牧師会に参加してきました。そこで、新年度に転任して、九州にやって来られた一人の先生に再会を致しました。私にとりましては間違いなくその先生との再会だったのですが、彼にとっては、私とは初めてお会いするという事でありました。なぜなら悲しいことに、彼は私のことを全く忘れておられたからです。**

**７年前、私は神学校に在籍していまして、夏期伝道実習に遣わされ、ほぼ一ヵ月、高知や徳島の海辺にある小さな教会を１０箇所ほど巡りました。その夏期伝道の一か月間のうちの１日間、私は、その先生と行動を共にしました。小さな岬の突端迄、車を走らせ、海を眺め、帰りは、Ｕターンする空き地が見当たらず、狭い道をずっとバックで運転して帰った記憶があります。**

**先週、私は先生にその時のお礼と、そんな体験しましたよね、としつこく問いかけてみましたけれども、結局、彼の私に関する記憶は思い起こされませんでした。私は７年ぶりに一目見て、あの時の彼だと、分かったのに、相手は、そんな体験は無かったかのようにそこに居られたのでした。**

**皆さんも対人関係で、こういった思いをされたことがおありになられるかも知れません。そんな時、私たちは、悲しみや失望や、時には怒りの感情さえも抱くかもしれません。**

**でも、神様から見れば、私たち人間は、誰しも忘れっぽく、忘れていく存在にほかなりません。**

**私たち人間が、忘れっぽく、忘れていく存在として造られている、と言うのは、人を悲しませる欠点でもありますが、それと同時に、人を喜ばすことも出来る利点でもあります。**

**例えば、私たちは、自分たちの罪を、さっぱりと忘れることができるなら、なんと幸せであり、それだけで永遠に生きたいと思うことでしょうか。**

**しかし、人間は逆に、罪なことは忘れないで、幸せなことは忘れてしまうという愚かさを持っています。**

**対して、神様はどうでしょうか。神様はあなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられておられます（マタイ10：30）。今日取れた魚の数も、数える前から153匹だとわかっておられます。神様は小さな事から大きなことまで全てのことを、決して忘れることなく最後まで記憶し続けるお方であります。何と畏れ多い御方でありましょう。しかし、その神様は、敢えて私たちの罪は忘れようとして下さる、誰よりも憐れみと慈しみに満ちた御方でもあります。（詩編25：7）**

**今日の聖書箇所は、その、と言う言葉で始ます。その後起ったことが、神様の記憶の中に積み重ねられていくという様に読みとれます。**

**弟子たちの内、ペトロやトマスたち漁師出身の弟子たちは、ガリラヤ湖湖畔のティベリウスで漁の仕事に戻っていました。「私は漁に行く」「私たちも一緒に行こう」しかし、その夜は何も取れなかった。この様に記されています。ここに弟子たちの心境や感情は一切記されていませんが、何か、波一つない、波乱がない湖面のような穏やかな弟子たちの心境が想像できます。彼らは、復活の主に出会ったなのに、心騒がすこともなく、この様に元のに戻っていたのでした。**

**それでは、彼らが、全く元の漁師たちに戻ってしまったのかと言いますと、それは全くそうではないのです。彼らは、主イエスにあって生きる人、主イエスの御言葉に従って生きる人、主イエスの記憶に留まって生きる人たちに変えられていたのでした。その彼らに起こった変化を見て参りましょう。**

**未だ、イエス様を知らない漁師たちの姿と、今日のイエス様を知ったの弟子たちとの姿を比較するには、今日の箇所と、ルカ福音書５章１節からの「漁師を弟子にする」の箇所を比較して読むとよいでしょう。このルカ福音書の箇所でも漁師たちは、魚が摂れずにいました。しかしイエス様が「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をしなさい」と彼らに言って彼らがその通りにすると、**

**ルカ福音書5章 6節-8節**

**そして、漁師たちがそのとおりにすると、おびただしい魚がかかり、網が破れそうになった。そこで、もう一そうの舟にいる仲間に合図して、来て手を貸してくれるように頼んだ。彼らは来て、二そうの舟を魚でいっぱいにしたので、舟は沈みそうになった。これを見たシモン・ペトロは、イエスの足もとにひれ伏して、「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです」と言った。**

**この様になりました。ヨハネ福音書のこの時も、イエス様の言う通りにすると、今迄にみたこともないような沢山の魚が取れて、弟子たちは驚かされたのでした。**

**この出来事は、主イエスが私たち人間に対して与えられた、奇跡の出来事です。奇跡は、私たちを驚かせ、心を高ぶらせることでしょう。**

**そして、ルカ福音書の漁師を弟子にした箇所と、今日ヨハネ福音書の復活のイエスに出会う箇所との違いは、同じ漁と言う場面で、同じくイエス様から「網を打ちなさい」と言われた彼らが、行ったことの違いにあります。**

**「漁師を弟子にする」の場面では、今迄にみたこともないような沢山の魚が取れたのを見て、ペトロたちは、「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです」と言ったのでした。つまり彼らは、この時、主イエスの畏れ多さを知り、ただその御前にひれ伏したのでした。ペトロたちは沢山の魚をみて驚いたというよりは、沢山の魚をもたらすことができる主イエスの力に驚き、その力の前に、ひれ伏したのでした。そしてそんなペトロたちに対して主イエスは、「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる。」と宣言され、彼らは舟を陸に引き上げ、すべてを捨ててイエスに従ったのでした。**

**それにくらべて、今日のペトロやヨハネ達はどうかと言いますと、彼らは、沢山の魚が摂れたのを見て、主イエスと出会った時のことを想い起して、「主だ」と言い、「主だ」と聞いて、裸同然だったので、上着をまとって湖に飛び込み、主イエスの処へと駆け付けたのでした。**

**彼らは、沢山の魚が摂れた以前と同じ場面を見て、主イエスのことを思い出したのでした。そして、彼らはその時、心も体も喜んで、イエスの身元へと駆け付けたのであります。**

**ここに、ルカ福音書に記された、イエス様との初めての出会いの場面との違いが明らかになっています。イエス様と初めて出会った時は、彼らは、恐れによってイエス様に従う者たちとされましたが、約三年間、イエス様に従う生活をしたことによって、彼らは喜んでイエスの身元へと駆け付ける者たちへと変えられていたのでした。**

**何故、弟子たちが喜んでイエスのもとへと駆け付けたのかと言いますと、それは彼らがイエスを愛し、イエスが彼らを愛しておられたからです。そのことは、７節でイエスの愛しておられたあの弟子が先ず初めに、「主だ」と気付いて声を上げたことに現れています。つまり、弟子たちとイエス様は愛によってひかれあっていたという事です。**

**この食事の場面でのイエス様の弟子たちに対する配慮は、実に事細かで至れり尽くせりであります。陸に上あがった弟子たちには、もうすでに炭火がおこしてあり、その上に魚がのせてあり、パンも用意されていました。これらは皆、イエス様が弟子たちの為に用意されたことです。こんな小さな事にもイエス様の愛があらわれています。**

**しかも、イエス様は弟子たちには「網を打ちなさい」と命じられて、出来る仕事をお与えになり、彼らの仕事を導き祝されたのでした。このようにして神と人とが協力をして整えられた食卓を前にして、主イエスは「さあ、来て、朝の食事をしなさい」と弟子たちに言われたのでした。この成り行きを見てみますと、なんだかイエス様が、キャンプを計画して整えてくれるリーダーの様にも見えてきます。**

**私たちは、イエス様と初めて出会ってから、この様に、おそれ多いイエス様に付き従い、イエス様との愛情を深めていく歩みを、この地上で重ねています。イエス様が、私たち一人ひとりの全てを知っておられる畏れ多い御方であることは最後まで変わりません。しかし、私たちは、その歩みの中で益々、主イエスにあって生きる人、主イエスの御言葉に従って生きる人、主イエスの記憶に留まって生きる人たちに変えられていくのです。そのように私たち自身が変えられていく中で、私たちは、イエス様が朝の食事を整えて下さる愛情深い御方であり、なすべきことをその都度教えてくれる、愛に満ちたリーダーであることを知ることができるでしょう。**

**私たち人間はいつまでたっても、忘れっぽく、忘れていく存在のままです。しかしそんな私たちは、主イエスの記憶に留まって生きる者へと変えられ、主イエスの永遠の命へつながることができます。**

**今迄にみたこともないような沢山の魚が取れたという奇跡の出来事も、私たち人間だけでは、いつしか忘れ去られる出来事に過ぎません。一方で、毎朝、食卓が整えられるという一見、平凡な日常の出来事でも、そこに主イエスが同席されるのならば、それは愛情に満ちた、忘れがたい出来事の積み重ねとなることでしょう。なぜならばその小さな出来事の一つ一つが主イエスの記憶によって永遠に覚えられているのですから。**

**私たちは、今日のガリラヤ湖湖畔での食事の風景を忘れないで、主イエスよ再び来て下さいと呼び求める祈りを、最後まで、共に続けて参りたいと願います。**

**祈り**

**神よ、あなたは御子イエスを復活させ、私たちに何度でも出会えるようにして下さいました。その計り知れない御恵みに感謝し、あなたをほめたたえます。**

**私たちは忘れやすい者でありながら、罪ある事にはこだわり、罪を忘れず、罪から逃れることができません。そのような愚かな私たちをどうかあなたが、その都度、赦して下さい。私たちが、罪から解放され、又、新しい命に生きられますよう、私たちを、日々、つくり変えて下さい。あなたの記憶のうちに全てを覚えていて下さり、良い出来事を豊かに祝し導いて下さい。**

**この世に生きる悲しみ、苦しみを覚えます。全ての喜びはあなたからやって来ます。どうか私たちが、あなたとの交わりである、祈りの時を忘れることなく、常に祈り、あなたと会話し、あなたからの恵みを受け取ることが出来るようにして下さい。争いの代わりに、愛を教えてくださる、あなたの憐れみを益々知り、あなたのもとへといつも走り寄ることが出来るようにして下さい。**

**私たちの心を鎮めてください。弟子たちがガリラヤ湖畔で、心穏やかに、あなたとの再会を待ち望んだように、私たちも御子イエスが来られる時を待ち望む、食事を最後まで続けることが出来ますように。**

**父と聖霊と共に**